

四国センター 年内開設

メタル便拡充 即日配送を強化

赤田運輸産業

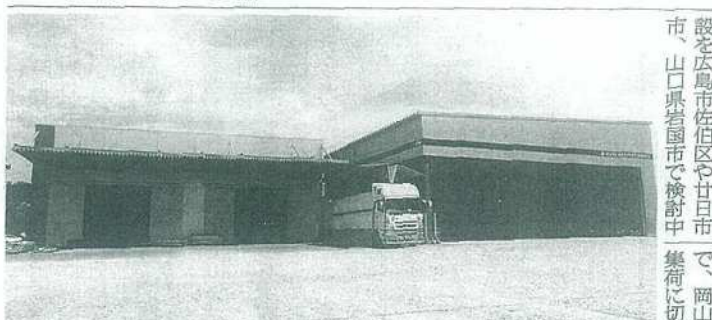
本社の中継拠点も増設

【岡山】赤田運輸産業(赤田健社長、岡山県笠岡市)は、長尺物や重量物など中小ロット貨物に対応する全国ネットの共同配送「メタル便」を中四国エリアで手掛けるが、年内に四国エリアに新規センターを開設し、サー

ビスレベルの向上を目指す。「ダントツのスピード」と銘打って、当日配送サービスも強化しており、今後は本社の中継拠点を増設するとともに、広島県西部にもセンターを新設する計画だ。(江藤和博)

赤田運輸産業は2017年から全国に輸送する荷物が重要課題で、四国センターに笠岡港(港町地区)にの集荷を手掛ける。長尺物や重量物の輸送需要は旺盛で、19年には2棟目の倉庫を、2棟の倉庫は荷主企業設。ここをメタル便の中継拠点として、全国から集まる荷物の中四国配送、中四

国から全国に輸送する荷物が重要課題で、四国センターに笠岡港(港町地区)にの集荷を手掛ける。長尺物や重量物の輸送需要は旺盛で、19年には2棟目の倉庫を、2棟の倉庫は荷主企業設。ここをメタル便の中継拠点として、全国から集まる荷物の中四国配送、中四



設を広島市佐伯区や廿日市、山口県岩国市で検討中

岡山からの集荷を現地集荷に切り替えることで荷主の集荷負担削減を狙う。

設を広島市佐伯区や廿日市、山口県岩国市で検討中。岡山からの集荷を現地集荷に切り替えることで荷主の集荷負担削減を狙う。メタル便事業では最近、2社の荷主に対し、早期に本社中継拠点へ自社トラックで持ち込んで当日配達するサービスも始めた。特別積合せ事業者を利用するのには比べ、伝票発行や梱包の手間が省けて荷主の経費が下がり、納期は変わらない。

赤田運輸産業は、本社の中継拠点を50平方メートルの用地に新たに倉庫増設を検討しているほか、旧本社(笠岡市有田)の笠岡北SPも活用し、輸送品目によっては野積み倉庫も用意する構えだ。また、広島県西部の営業所建

設を広島市佐伯区や廿日市、山口県岩国市で検討中。岡山からの集荷を現地集荷に切り替えることで荷主の集荷負担削減を狙う。メタル便事業では最近、2社の荷主に対し、早期に本社中継拠点へ自社トラックで持ち込んで当日配達するサービスも始めた。特別積合せ事業者を利用するのには比べ、伝票発行や梱包の手間が省けて荷主の経費が下がり、納期は変わらない。

物流

赤田社長は「最近では水島港や福山港に輸入される国際コンテナを本社中継拠点まで輸送し、デバンニング作業、保管も行っている。中小ロットの長尺物や重量物は特種事業者に敬遠されるため、市場性はある。今後の中継拠点を活用した物流を強化していきたい」としている。